用語解説

番号	頁	用　語	解　説
※1	Ｐ１	組積造（そせきぞう）	石、レンガ、コンクリートブロック等を積み上げて作る建築物の構造形式のひとつ
※2	Ｐ４	意匠（いしょう）	形、模様、色又はその構成などのデザイン
※3	Ｐ４	混構造（こんこうぞう）	建築構造の一種で、異種の構造が組み合わされている状態もしくはその構造をいう
※4	Ｐ６	中心飾り（ちゅうしんかざり）	天井の中心に設えられた漆喰でできた装飾
※5	Ｐ９	耐火構造（たいかこうぞう）	建築基準法第２条第７号に規定される耐火構造で、壁、柱、床その他の建築物の部分の構造のうち、耐火性能（火災が終了するまでの間、建築物の倒壊及び延焼を防止するために必要とされる性能）のある鉄筋コンクリート造、レンガ造その他の構造
※6	Ｐ９	遮炎性能（しゃえんせいのう）	建築基準法第２条第９の２号に示される遮炎性能で、火災時の火炎を有効に遮るために防火戸などに必要とされる性能
※7	Ｐ８	重複区間	避難上の歩行距離が重複する区間をいう
※8	Ｐ９	主要構造部	建築基準法第２条第５号に規定される主要構造部で、壁、柱、床、はり、屋根又は階段をいい、建築物の構造上重要でない間仕切壁などの部分を除く
※9	Ｐ９	修景（しゅうけい）のための置き屋根	耐火構造ではない屋根のこと。屋根は外部からの延焼・飛火の防止、内部火災による倒壊の防止等を目的として耐火構造にする必要があるが、耐火建築物のおいて、耐火構造の屋根版（スラブ）の上に設ける屋根の部分は、外部からの延焼や内部火災による影響はないと考えられるので、不燃材料で造ればよいとされる
※10	Ｐ９	木摺下地（きずりしたじ）	漆喰などの下地に用いられる薄く幅の狭い板
※11	Ｐ10	フラッシュオーバー	室内の局所的な火災が、火災発生の一定の時間後に爆発的に室全域に拡大し延焼する火災現象で、極めて高温の環境が一気に広範囲に広がることから避難が困難になり、消火活動も限定的なものとなる
※12	Ｐ12	脆性破壊（ぜいせいはかい）	変形することなく突発的に発生する壊れ方
※13	Ｐ13	水平構面（すいへいこうめん）	屋根や床などの面をいい、地震や暴風時に建築物に横からかかる力を壁（耐力壁）に伝えるため、変形しにくく壊れない床等とする必要がある

※14	P 14	非構造部材（ひこうぞうぶざい）	天井材、外装材、内装仕上材等の構造体と区別された部材をいう
※15	P 14	屋根葺き材（やねふ）	屋根仕上面に設けられる部材をいい、瓦、スレート、金属板等の素材がある
※16	P 15	野地板（のじいた）	屋根仕上げの下地として張る板
※17	P 15	継手仕口（つぎてしぐち）	２つ以上の材木を接合する部分や手法
※18	P 15	鍛金（たんきん）	金属をたたいて板状にのばし、形づくる金工の技法
※19	P 16	斑直し（むらなおし）	土壁に壁土を塗り込み、不陸(凸凹)を直し壁の厚みを整える作業
※20	P 16	人造石研ぎ出し（じんぞうせきとだ）	セメントと種石を混ぜ合わせたものを塗りつけ、硬化のタイミングをみて、砥石や研磨機で研ぎ出す工法
※21	P 16	エフロレッセンス	白華現象ともいい、コンクリートやモルタルの中の石灰などが、水分で溶かされて表面に染み出し白く浮き出したもの。コンクリート等の強度に問題はないとされている
※22	P 16	豆板（ジャンカ）	コンクリート打設時の施工不良の一つで、砂利が浮き出て隙間ができている部分。ジャンカの部分はコンクリートの本来の強度が出ず脆い状態となる
※23	P 17	防火ダンパー	火災の拡大を防ぐため、防火区画等を貫通する風道等の開口部に取り付け、火災による温度上昇時に自動的に風道等を閉鎖させる装置
※24	P 21	鋳鉄（ちゅうてつ）	炭素量 2.14%を超える鉄素材をいう（鉄と鋼と鋳鉄の違いは素材の中に含まれる「炭素」量の違いである）
※25	P 22	塔屋（とうや）	建物屋上から部分的に突き出た部分をいい、屋上への出入口として、またはエレベーターの機械室等として設けられる
※26	P 30	デザインコード	建築物の形態等によって空間の秩序を形成する要素で、建築意匠の景観的調和を考えるうえで手掛かりとなる
※27	P 30	色相（しきそう）	色の３属性の一つで、赤、青、黄など色の様相の違い
※28	P 30	明度（めいど）	色の３属性の一つで、色の明るさの度合い。明度が高くなると白に近づき、明度が低くなると黒に近づく
※29	P 30	彩度（さいど）	色の３属性の一つで、色の鮮やかさの度合い
※30	P 30	視点場（してんば）	景観や風景を眺める場所